

◆牛若丸と弁慶、初対面の場所はどこか

牛若丸と弁慶について記した書物としては、『吾妻鏡』『源平盛衰記』『義經記』『お伽草子』などが挙げられる。だが、二人の出会いが鮮明に描かれているのは『義經記』だろう。九百九十九本目の刀を奪った弁慶は五条天神に参り、「今夜、満願の太刀を与え給え」と祈念した。その夜更けに天神の南へ行つて、人家の築地の際に佇んで、立派な太刀を持った者が来るのを待つた。明け方になつて笛の音が聞こえた。弁慶は「面白い。天神へ参るのに笛を吹きながら来るとは。良い太刀を持っていれば取つてやろう」と近づいていくと、年端も行かぬ少年が黄金造りの太刀を差している。こんな小僧、魯せばすぐに太刀が取れると弁慶は思い、「太刀をここへ置いて通られよ」と言うと、少年は「欲しければ奪い取つてみよ」と言う。

そこで、弁慶は飛びかかつていった。ところが、相手は九尺（約二・七メートル）もある築地の上に飛び上がつたり、そこから降りる途中、弁慶に飛びかかると、宙返りをしたりした。結局、弁慶は歯が立たず、むなしく帰つた。

これが室町時代の『義經記』に書かれている牛若丸と弁慶、一人の最初の出会いであつた。

牛若丸は、この時すでに鞍馬の天狗に武術を教わり、『六韁三略』（次項を参照）の「虎の巻」の兵法を身に付けていた。到底、弁慶が勝てる相手ではなかつたのである。

翌日、二人は清水寺で再び会い、そこで弁慶は惨敗して、義經の家来となつた。

五条天神とは現在の五条天神宮のことで、西洞院通松原下るの地に鎮座している。京都の町の凄さは、史実も昔話も混在して息づいていることだ。千年以上前の話が当たり前のように語り継がれている。

また、ここには日本最古と伝わる宝船図があり、その複製が節分の日に参詣人に授与されている。船に稻穂が一束乗つてゐるだけの絵に、神代九文字の朱印が押されている簡素なものだ。京都では立春に見る夢が初夢とされた。そして節分の夜に「宝船」の絵を枕の下に敷いて寝ると、初夢が叶うと伝えられている。義經もここでその宝船図を授かり、平家打倒の初夢を見たのかも知れない。

◆源義経は陰陽師の鬼一法眼から何を盗んだのか

京都市内の北に位置する鞍馬には牛若丸、のちの源義経にゆかりの場所が多く存在している。